

大空 (生徒・保護者向け) 15号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和2年8月7日(金)

探究する夏—1学期高校終業式—

□本日の概要

- 体験や活動に制約のある中、今後はオンライン等を活用し探究する力が重要になる。
- 自分が探究したいもの(目標)が明らかになると勉強にも意欲的になれる。目標は与えられるのではなく、自分で主体的に見つける必要がある。
- 休暇は、自分の課題に向き合ったり、目標を見つけたりするためにある。それぞれの興味や課題について探究して欲しい。

□オンラインで探究する夏

本日は1学期の終業式です。今年の夏は、新型コロナウイルスの影響により、全国的に夏休みが短くなっています。本校も、お盆休みを挟んだだけの短い夏休みになってしまいました。夏休みというと、日常の学校生活ではできなかった行事や、部活動、自分なりの学習、読書など、様々な体験を積むことで、大きく成長する時です。本来ならば、大学のオープンスクールなどを推奨するところですが、今年はその多くが中止、もしくはオンラインでの開催となっています。このような状況はしばらく続くと思われるので、将来についての情報収集についても、今後はオンラインなどを活用して探究する力を身につけることも重要になるでしょう。

□月面基地を作りたい生徒

昔は、情報収集の方法は限られていました。インターネットも普及していない頃、先輩方はどうやって大学の情報を得ていたのでしょうか。

これは、インターネットが普及していない、30年以上前の話です。当時、同僚だったT先生(理科の先生で理数科の担任をしていました。)から聞いた一種の西高伝説ですが、情報の入手手段がなかった時代に、地元にながら自分なりに進路を模索をした逸話として紹介したいと思います。

その生徒をA君とします。T先生によれば、彼は、あまり勉強熱心な生徒ではなかったようです。能力は非常に高かったようですが、自分の好きなことしか取り組まず、学業にはムラがあったようです。

勉強に関する努力はあまりしないのですが、「自分は将来月面基地を作りたい」という大きな夢は持っていたそうです。夢はあったが、そのために何を学ぶべきなのか、具体的ではなかったと言ってもいいかもしれません。

昔の先生は「そんな夢物語みたいなことを言っていないで、さっさと勉強しろ!大学に通らないぞ」と叱ったものです。ところが、T先生は発想の柔軟な人でした。A君の性格を良く理解していたのでしょう。A君に、頭ごなしに勉強しろと言っても効果がないと分かっていたのか、このようなアドバイスします。「月面基地を作りたいという君のアイデアは大変おもしろい。君のプランを実現するためには、どんな学問が必要なのか、どんな勉強をすればいいのか、大学に質問の手紙を出してみたらどうだろう。」

今だったら、インターネットで大学のHPを調べたり、検索すれば様々な情報が見つかります。でも、当時は調べるといったら、図書館しかなかった時代です。オープンキャンパスという概念もなく、情報がまったくありませんでした。大学に手紙を書くことは簡単なことではないと思いますが、A君は、本気で夢を実現させたかったのでしょうか。T先生のアドバイスに従い、いくつかの大学に、自分のプランと、質問の手紙を送ったそうです。

A君がどんな内容の手紙を送ったのか分かりませんが、「月に基地を建てるためにはどんな勉強をしたらいいですか?」という小学生のような問いではなかったのでしょうか。ひょっとしたら、今で言う、自由研究的なもの、現在、宮崎西高校で実施している「きみろん」の簡略版みたいなものを送ったのかもしれない。大学の教授も興味を持ったのでしょうか。いくつかの大学からは返事がきたそうです。その中で、最も詳しく、A君の質問に真剣に答えてくれた大学があったそうです。A君は、この大学なら自分の夢を叶えるための勉強ができそうだと感激し、その大学を志望校にすること決め、アドバイスをしてくれたT先生に報告します。

その大学は東京大学でした。いわゆる難関大学です。しかし、本気で勉強したいと決意したA君は、真剣に勉強に取り組むようになったのです。難関大

学だから東大を目指したのではなく、自分の夢に向き合い、共鳴してくれた大学として、東大を目指したのです。本気になったA君は、念願かなって東大に合格したそうです。

これでも十分なサクセスストーリーですが、東大に進学し、A君の夢は本当に叶ったのでしょうか。

大学卒業後、A君は大手住宅メーカーのMホームに就職し、設計開発の仕事に携わったようです。月面基地の設計を夢みた少年が、結局、現実的な大手住宅会社に就職したということでしょうか。ところが違います。皆さんは、南極に昭和基地という日本の越冬隊が駐留し研究をしている施設があることを知っていると思います。その昭和基地の大半は、A君が就職したMホームが設計しているのです。マイナス50度近くの極寒の厳しい自然条件の中、機材もない場所で、研究者である隊員が基地を組み立てたり、メンテナンスをしているのです。大工さんでも何でもない、工事の素人である隊員が設置可能であるだけでなく、何よりも南極の気候に耐える、堅牢で安全で快適でなものでなければなりません。このような基地の設計思想は、同じく極限状態である月面基地の設計思想と同じなのです。A君は、この南極基地のプロジェクトに関わるようになったとのことでした。残念ながら、人類は、まだ月面には基地を建設していません。でも、A君の夢は、その一歩手前の、南極基地として叶ったと言えるのではないのでしょうか。

□夢(目標)は自分で作る

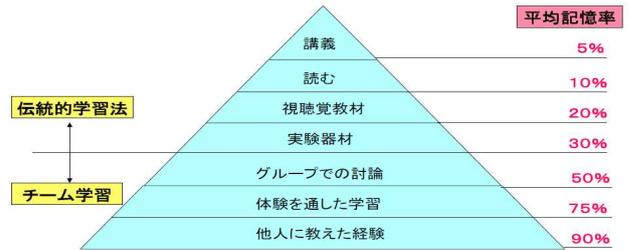
このエピソードで、私は東大の宣伝をしたいのではありません。東大以外からも返事が来たようですので、真剣に探究を深めようという高校生の夢や問いに共鳴してくれる大学は意外とあるのです。学びたいテーマがあり、探究心旺盛な生徒を大学は歓迎します。大切なのは、A君が、誰かに勧められて何となく東大を目標にしたのではなく、自分が主体的に情報を得ようと行動した結果、自分の研究したいことを実現させてくれる大学だという手応えを、自分でつかんだということなのです。

A君は、自分で問いを立て、自分で手紙を書きました。自らが主体的に取り組むと、人は劇的に変わります。勉強に対してあまり努力していなかったA君ですが、目標ができると、見違えるように努力するようになったそうです。

□主体的な学び

下の図はラーニングピラミッドとよばれるもので、学習をした際の記憶の記憶率を示しています。(出典:National Training Laboratories)ピラミッドの下ほど記憶の定着率が良いのですが、最も記憶率が良

いのは「他人に教えた体験」です。



もっとも、この図は記憶率を示したものであり、従来型の講義や、読むという活動が無意味だと言っているわけではありません。講義や、読むという行為は、体験に比べて抽象度が高いのは事実です。しかし、体験が記憶に残るといっても、講義も本を読むこともせず、体験だけすれば良いということにはなりません。大切なことは、受動的に学習するのではなく、自ら動く主体的な要素を入れ込むということなのです。主体的な行為を重ねると、その過程で出会った情報は皆さんの内部に定着し、自分の真の力になる可能性が高まります。

□目標や課題を探究せよ

将棋の藤井聡太7段は、先日、17歳11ヶ月で将棋の八大タイトルの一つである棋聖戦を制するという快挙を成し遂げました。彼は、中学2年生でプロ入りし、4年足らずでタイトル獲得という飛躍的な伸びを見せましたが、昨年はなかなか勝てず苦しんだようです。藤井7段のNHKのインタビューを見ましたが、彼が飛躍的に伸びたのは、新型コロナウイルスのために4月から50日ほど対局ができなかった間、自分の課題に向き合うことができたことだそうです。そして、まとまった時間で、じっくり取り組んだ結果、課題であった将棋の中盤の力が飛躍的に伸びたということです。勉強で例えるなら、長期休暇を利用して、自分の苦手科目に取り組んだということでしょうか。藤井7段と言えば、AIを活用し将棋の実力を高めていることでも知られています。対局ができないという制約を、逆に自分の力をつける期間に昇華させた一人の高校生の例として参考になるとと思います。

藤井7段が、NHKのインタビューの最後に色紙に記した言葉は「探究」です。探究の対象が違うだけで、やろうとしていることは、実は宮崎西高校も同じです。藤井7段は、自分の生涯をかけて探究するものとして将棋を見つけました。皆さんも、探究の対象を模索してください。明日からの休みが、それぞれの目標や課題について、深く探究する夏になることを願っています。